



ALSO プロバイダーコース

～秋田大学～

Advanced Life Support in Obstetrics(ALSO)とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースである。1991年にACLSとATLSに基づいて、ウィスコンシン州の一般診療医師二人がALSOを考案した。1993年にコース権利はAmerican Academy of Family Physicians (AAFP-米国家家庭医学会) によって認可され、現在全米では多くの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーがALSOの受講を義務づけられている。またALSOコースは世界的に普及活動が行われており、現在までに63カ国、16万人以上がALSOコースを完了した。

プロバイダーコースは2日間で行われる。コースの内容は、レクチャー、症例検討、実地訓練のためのマネキンを使用したワークショップである。筆記試験とマネキンによる実技試験(メガデリバリー)がコースに含まれている。ALSOは分娩室における産科の救急的対処や医療安全を強調している。必須学習内容はマタニティケアにおける安全性、難産、妊娠初期の合併症、妊娠の内科的合併症、早産と前期破水、妊娠後期の性器出血と、症例検討を含む分娩中の胎児監視、妊娠の内科的合併症、そして(以下少人数グループによる実技トレーニングを含む)肩甲難産、補助経膈分娩、骨盤位分娩、分娩後大出血、妊婦の心肺停止である。

プロバイダーコースを受講し試験に合格した場合は、受講者は AAFP の認定する 5 年間有効の認証を受けることができる。また、プロバイダーコースの講師になることを希望する場合、1日間のインストラクターコースを受講しなければならない。

日本では2008年11月に金沢で日本初のプロバイダーコースが開催されて以来、全国35の都道府県でコースが開催され、コース修了者は5,000名を超えた(2015年12月31日時点)。参加者は産婦人科医、助産師だけでなく、プライマリケア医、救急医、麻酔科医、小児科医や他科医師、研修医、そして医学生などであり、現在あるいは近未来の日本の周産期医療体制において、分娩や産科救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加している。産科救急医療は、産婦人科医だけで維持し続けることが難しい状況になりつつあることは周知の事実である。日本全国のすべての地域で産科医療を維持するには、産科医療に関わりたいという志を持った人たちが教育を受けられる場所を多く提供し、最低限必要な医療チーム体制をあらゆる医療圏に確保する必要がある。まさにその足がかりとなるトレーニングコースがALSOである。

ALSO-Japan 事業執行部

ALSOプロバイダーコース in 秋田大学

主催：秋田大学医学系研究科産婦人科学講座

共催：NPO 法人周生期医療支援機構（OPPIC）

場所：秋田大学基礎医学研究棟 1 階第 1 会議室、2 階第 2 会議室 他

日時：平成 30 年 10 月 27（土）、10 月 28 日（日）

定員：15 名

参加費：33,000 円

申込方法：件名に「ALSO 受講」と記載し、必要事項をご記入の上、お申込ください。なお、記入事項不備の場合は、申込を受理できません。

参加申込必要事項：

- ① 名前
- ② ふりがな
- ③ 名前ローマ字表記（例：おるそう 太郎 Taro Also）
- ④ 所属病院
- ⑤ 診療科
- ⑥ 役職
- ⑦ 職種
- ⑧ 卒業年度（西暦）
- ⑨ 現住所（*郵便番号も記入ください）
- ⑩ 携帯番号（*当日連絡がつくもの）
- ⑪ メールアドレス（*携帯メールアドレスは不可）

送り先：秋田大学産婦人科 医局秘書 進藤恵

e-mail：shindom@doc.med.akita-u.ac.jp

***原則、公募はいたしません。**

秋田大学 ALSO プロバイダコース会場案内図

